

## 4 愛知県犬山市「博物館明治村」／東京・渋谷「Bunkamura」



子どもたちを歓迎する「博物館明治村」村長の小沢昭一さん（右）＝愛知県犬山市（明治村提供）

# 60余の建物移築、復元

国的重要文化財に指定された山梨県の元郡役所に「村長室」があり、明治時代の建物を六十余約百珍の敷地に、明治時代の建物を六十余り移築・復元している。

「村長」の俳優、小沢昭一さんが「いらっしゃい」と録音で歓迎してくれる。

一九五〇年代、高度経済成長の中で古い建物が次々に壊されてしまった。残念に思った明

谷口さんは、武者小

新しき村は、作家の故武者小路実篤さんが大正・昭和初期に建設。自給自足的な暮らしと芸術を通じて、自分も他者も尊重する共同体を目指した。宮崎県木城町と埼玉県毛呂山町で、今も存続している。

谷口さんは、武者小

テーマパークなど、「村」をうたう施設は各地にある。その先駆

けが愛知県犬山市の「博物館明治村」だ。約百珍の敷地に、明治時代の建物を六十余り移築・復元している。

谷口吉郎さんが、友人で名古屋鉄道（名鉄）社長だった故土川元夫さんに相談。犬山市郊外の名鉄所有の丘陵地に六五年、明治村をオーブンさせた。

# 村のチカラ

治生まれの建築家、故谷口吉郎さんが、友人で名古屋鉄道（名鉄）社長だった故土川元夫さんに相談。犬山市郊外の名鉄所有の丘陵地に六五年、明治村をオーブンさせた。

「村」と名付けた理由について、谷口さんと親交のあった館長の飯田喜四郎さんは「新しき村」の影響と推測する。

# 都心の文化発信地に

路さんが発刊していた雑誌「こころ」の同人で、親交があった。谷口さんは（新しき村のよう）に人が幸せに集まる理想郷を明治村に求めたのではないか」と飯田さんは話す。

元東急文化村副社長の清水嘉弘さんは、施設の命名について、五島さんから「文化村」にしたい」と告げられた。詳細な説明はなく、清水さんは、五島さんの心中を察するしかないが、「あらゆる芸術のジャンルが集まるところにして、人々の感動を呼びたかったのでは」と



「Bunkamura」に設けられたカフェテラス。東のように水がわく周辺に人が集う  
=東京都渋谷区

行楽の多様化で、明治村の来館者は減ったが、季節ごとのイベントなどは好評。新しい日本を切り開いた明治の空気につれられる、子どもの社会学習の場としても人気が出ている。

大都会にも「村」は息づく。東京・渋谷の「Bunkamura」。東急グループ会長だった故五島昇さんが、東急百貨店本店の隣に設立し、来年二十周年を迎える。オペラをはじめ内外の一流の音楽、演劇、映画、美術を紹介するとともに、独自の文学

ホーリーの名前も「村」に関係がある。「オーチャード」は果樹園、「コクーン」は繭をそなづれ意味する。インターネット上も含め、「村」と名付けられたものは多い。ネーミングの第一人者でコピーライターの岩永嘉弘さんは「人同士が暮らす最小の社会的単位である村を壊してきたのが、明治以降の近代。心理的に、その小さな単位に戻ろうとしているのが二十一世紀では」と分析する。